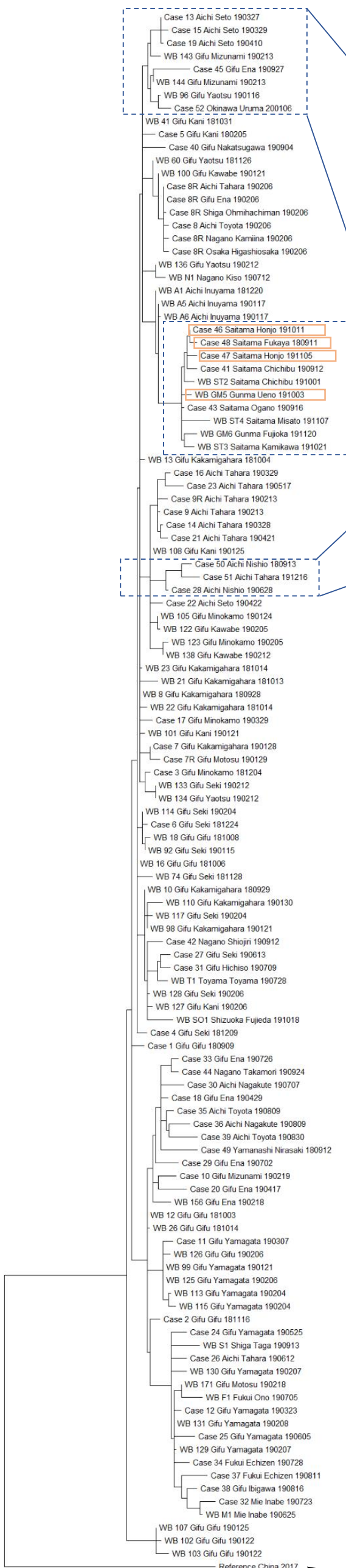


国内で分離されたCSFウイルスの全ゲノム情報を用いた 遺伝子系統樹



イノシシからの分離株
(2019年1月に岐阜県内で発見)

52例目 (沖縄県うるま市)からの分離株

群馬県及び埼玉県の発生農場
または感染イノシシからの分離株。
オレンジの枠は今回新たに追加した株。

50例目 (愛知県西尾市)からの分離株

51例目 (愛知県田原市)からの分離株

28例目 (愛知県西尾市)からの分離株

1. 方法

(1) 使用データ

- 日本分離株 119株
- 発生農場由来株 59株 (52例目まで (関連農場を含む))
- 野生イノシシ由来株 60株
- 中国由来参照株 1株

※51例目 (愛知県)、52例目 (沖縄県) の農場発生事例及び群馬県 (1例) と埼玉県 (3例) の野生イノシシ感染事例からの分離株を追加

(2) 遺伝子解析

- ・日本分離株については、ウイルス分離の後※、Ion PGMを用いて遺伝子全長の配列を決定
- ・MAFFTでアライメントを行い、11,779塩基 (3,926アミノ酸) を解析に利用
- ・MEGA Xで最尤系統樹を作成

2. 結果

- ・株名は「区分_事例番号_県名_市町村名_採材年月日」を示す。区分は、「Case」が農場分離株、「WB」がイノシシ分離株を示す。発生農場の事例番号の「R」は、関連農場の発生事例からの分離株であることを示す。
- ・51例目 (愛知県田原市) の発生農場から分離された株は、28例目や50例目 (いずれも愛知県西尾市) の発生農場から分離された株と最も近縁であった
- ・52例目 (沖縄県うるま市) の発生農場から分離された株は、これまでに確認されている感染農場のいずれにも直接由来していないと考えられ、昨年1月に岐阜県加茂郡八百津町で発見された死亡イノシシから分離された株と最も近縁であった
- ・群馬県と埼玉県の野生イノシシから分離された株は、これまでに解析された群馬県、埼玉県の野生イノシシ由来株や埼玉県の農場発生事例由来株と近縁であった

※ ただし、一部の株については、ウイルス分離を介さずに検査検体から抽出したウイルスの遺伝子の配列を決定した。こうした株については、「分離株」は「検出された遺伝子」を意味する。

比較対象となる中国分離株
(データが公開されているものでは日本分離株に最も近い)